日托服务“J”的挑战（中）
…异文化篇…

接着上一篇，本期以围绕护理的异文化为中心，请归国者第二代 H 先生介绍一下为老年归国者所开设的日托服务设施的运营情况。

◆对护理服务的不同认识

可能谈不上是异文化的问题，但行政部门也首先根据惯例向归国者介绍日本的护理员，这样就肯定会出现饭菜不合口味等不满，不少人最后只好来到我们这儿。因为环境变好，有些人的护理度甚至从 3 降到了 2。但是，可能由于我们才刚刚起步，尚未建立信誉，因此即便有的用户本人从一开始就希望来这里，但事实上也是在去了一个半月其它设施后才能来。

但是，如果在第一次利用设施时就遭受过挫折的话，往往就不想再利用了。这样，即便是面向归国者的设施，即便可以用中文，有的人也不想再利用任何设施了。

在归国者中，本来就有 80%的人对护理制度尚未完全理解。有的人身体状况已经可以接受护理评定了，但是，自己觉得外出的话，会被人说三道四，因而整天闭门不出；也有的人根本就不相信能够享受免费的护理，因此拒绝利用。

另外，还有很多人虽然知道有这种制度，但不想利用，这样的人大都在卧床不起之前什么护理服务都没有利用过。最终卧床不起了，没办法只好进设施，但还是因为无法沟通而感到孤独，

デイサービス「Ｊ」の挑戦（中）
…異文化編…

（上）に続き、高齢帰国者のために二世が開いたデイサービス施設の運営の状況について、今号では、介護を巡る異文化を中心に、Ｈさんに語っていただきます。

◆ 介護サービスに対する見方の違い

異文化の問題とは言えないかもしれませんが、帰国者に対しても、行政はまずは慣例で日本人ヘルパーを紹介します。そうすると、料理が口に合わないなどの不満が必ず出てきて、最終的にうちに来るというケースが結構あるんですが、環境がよくなったことで介護度が３から２になった人もいるんですよ。しかし、利用者本人が初めからここに来たいと希望していても、うちが始めたばかりでまだ信用がないせいか、人によっては一ヶ月半ほども他のサービスを利用した後に、やっとここに来ることができるのが現状です。

ところが、一回めの利用時に挫折体験があると、二度と施設は利用したくないと思ってしまいがち。こうなってからでは、帰国者向けのところであろうが中国語が通じようが利用したいと思わなくなってしまう人もいます。

帰国者の方も、もともと８割の人は介護制度をよく理解していないと思います。介護認定を受けられる程度に不自由なのに、そんな体で外を歩くといろいろ言われるからと引きこもり状態の人もいれば、無料で受けられると信じられなくて利用しない人もいます。

また、制度は知っていても利用したがらない人も多く、大体は寝たきりになるまで何

“总想离开这里”。

有些家属因护理过度而自己住进了医院，因此利用护理设施实际上也是为家属考虑的，有的归国者听了我们的劝说后最终愿意利用设施了。

实际上建立归国者能聚集在一起的设施的意义正是为了这样的人…。

其实日本人中也有这样的倾向，许多人上了年纪后就懒得走出狭小的生活圈子，不愿意利用跟陌生人在一起的设施。另外，中国人还是最重视来自熟人的信息，只有有熟人的地方或由熟人介绍的地方才会动心。

好不容易建立了面向归国者的设施，可有不少人甚至连试用一下都拒绝。

但反过来说，设施内只要有一个自己信赖的人，就有可能进来。在我们设施内工作的归国者护理员简直就像亲人一样无微不至地照料利用者，有的利用者就是冲着他们来的。

虽说如此，但是要与利用了一次设施后留下不愉快回忆的人之间建立信赖关系也并不容易。有一位归国者，我们上门六次均被拒之门外，但我们仍不气馁，最后逐渐与他建立了信赖关系。他在九个月前完全卧床不起了，但是来我们设施接受护理服务数月之后，又能扶着扶手走路了。

我们将在下一期里继续为您介绍！(An)

转载自《同声同气》第 57 期

も利用しないんです。いよいよ寝たきりになって仕方なく施設に行っても、やはりコミュニケーションがとれない孤独感から「とにかくここを出たい」という話になる。

家族が無理をおして介護していて介護疲れで入院してしまうことも。家族のためにも、と説得して、やっと介護保険を利用してもらえるようになったケースもあります。

これらの人たちにこそ、帰国者の集う施設の意義があると考えているのですが…。

また、日本人もそういう傾向があると思いますが、年を取ると狭い世界から出るのが億劫になるため、知らない人のいる施設は利用したくないという人が多いですね。それと、中国人は情報源として口コミをやはり一番重視するので、知り合いのいるところか知り合いの紹介したところにしか食指を動かさない傾向があります。せっかく帰国者向けの施設を作ったのに、お試し利用もイヤと言う人が結構います。

でもそれは、裏返せば、施設の中に誰か１人でも信頼できる人ができると来るということでもあります。うちの帰国者ヘルパーは高齢帰国者に対してとても親身になって世話をしてくれるのですが、このヘルパーさんがいるなら、と来てくれるようになった人がいました。

とはいえ、一度施設利用でいやな思いをした人との間に信頼関係を築くのは容易ではありません。訪問をして６回「帰れ」と言われても引き下がらず、徐々に信頼関係を築いていったケースもあります。この人は９ヶ月前には全く寝たきりだったのが、ここに通うようになって数ヶ月かけてまた伝い歩きができるようになりました。以下、次号！

(An)『同声・同気』第 57 号より転載